

やさしいうすき 実行委員会

こんにちは。白杵市議会議員のひきだくみこです。
ふるさと白杵が、すべての人にとって安心して暮らせる
優しい地域であるように。そんな願いで活動しています。
今回は、市議会定例会で行った一般質問を中心に
ご報告します。

発行：ひきだくみこ（やさしいうすき実行委員会会長）
事務所：〒875-0041 白杵市大字白杵 70番地の16
自宅：〒875-0083 白杵市井村1960
TEL：0972-63-7140 FAX：0972-63-7186
メール：kuu.okok@gmail.com
ブログ：<https://www.hkd8.net/>

2019年6月定例会
概要（6月4日-7月2日）

2019年度一般会計補正予算案4億571万4千円（累計222億5795万6千円）など17議案を原案通り可決。『野津町吉田での太陽光発電事業計画中止の意見書を提出するよう求める』請願については、継続審査が決定しました。

一般質問

多様な性を尊重する地域社会であってほしい

今年2月、県の定例会で広瀬知事が「性的少数者を含むすべての人の多様な価値観や生き方が認められ幸せを追求できる社会を目指し当事者に寄り添った取り組みを加速させていく」と答弁し、申請書や通知書など922種類の書類のうちおよそ3割（257種）から性別記載欄を削除すると明らかにしました。

白杵市の対応は？
(部落差別解消推進・人権啓発課 課長)

- 書類の性別欄についてその必要性の調査を始める予定。
- 研修については昨年度から今年度にかけて市職員全員に実施。

これからも、市民一人ひとりが個性や違いを認め合い、自分らしく生きられる白杵市を目指し継続的に周知・啓発に努めていくという答弁がありました。

学校現場での対応は？
(教育委員会学校教育課 課長)

教職員は「各学校に一人はいる」という意識を持ち、一人ひとりの権利を尊重し個性を認め、伸ばす教育を実践しています。

多様な性を尊重できる社会づくりに向け、今後も児童生徒に寄り添いながら、L G B Tなどの性的少数者が負い目を感じることなく自らを表現し、また周囲もそれを自然に受け入れることのできる児童生徒の育成、学校づくりに取り組んでいきます。

学校内にポスターや本があるだけでも、正しい情報を得る貴重な機会になりますし、性的少数者の方の自叙伝やエッセイのような書籍も参考になるかもしれません。（周りにモデルとなる大人が見えにくい分、自分の将来に希望がないという話も聞きます）制服に関しては全国的に見直す学校が増えており、男らしい女らしいとかいうセクシャリティを意識しないでいいように代わってきています。（たとえばスカート、キュロット、ズボンが選べる等）マイノリティの生徒への配慮だけでなく、暑さや寒さへの対応、動きやすさなど、誰もが安全で快適に自分らしく学校生活を送ることができるようとの配慮です。性的少数者の生徒は、ステレオタイプな見方でひとくくりにされるのではなく、自分自身があるがままに認めてほしいと願っていると思います。それは他の生徒も同じです。性の問題を様々な側面から考えることは、多様性についての肯定的なメッセージとなり、人権意識を養う貴重な機会となるかと思います。

2019年夏号



ひ
き
だ
く
み
こ

読み聞かせに参ります



夏をむかえました。
戦争が決して現代を生きる私たち
と無縁ではないことや、平和をどう
紡いでいくのかを考える機会を
持ちたいですね。



人と猫の共生 in 白杵 テーマ

同じ場所で生きる命のこと。
ひとりひとりが考えてみよう。
みんなつながっている。

みんなで現状を共有しながら
また、海外（ドイツ）での取り組みなども
参照しながら、みんなで考えてみませんか？



あなたの声を聞かせてください！
みなさんとフラットに対話できる場
やさしいうすきを語る会を開催しています

テレビや雑誌の中で、アイドルのようにもてはやされる猫。家族の一員として幸せそうな猫。そんな猫たちを見ることが増えてきたと思います。ただその裏で、平成29年度は大分県だけで1764頭の猫が殺処分されている現実があります。野良犬を見なくなったと思いませんか？それに伴うように犬の殺処分数は平成の間に急激に減少しました。しかし野良猫に関してはいたるところに存在し、殺処分数も増減を繰り返しながら減少傾向にはあるものの、犬のように大きな減少は見られず、トラブルや苦情も依然として大きな問題となっています。今の野良猫は人間が手放した猫たちが繁殖したものです。あの気ままに見える野良の環境は、実際は本当に過酷なもので、寒さ、暑さ、飢え、事故、病気…様々なリスクと戦っています。飼い猫の寿命が伸びている一方で野良猫の平均寿命は4年という本当に短い一生です。幸せを求める私たちの生活フィールドと同じ場所で悲しい事が起きています。人間だけの幸せが本当に幸せな状態でしょうか？同じ場所で起きていることは誰も関係ないということはありません。この後世に残したくない問題を解決するには今「私達がこの問題をどう捉え」「何をするか」を考えることです。（講師：フワフワを守り隊 櫻井暢子）



人と猫の共生 in 白杵

8月20日(火)10:00~12:00
白杵市観光交流プラザ1階
参加費：無料（申し込み不要）

お問い合わせ等は
左記のLINEから
受け付けております！
子どもさんも連れてご参加下さい！

今までの開催テーマ

- 2ヶ月に1度開催！ /
- ・性の多様性について
- ・子育てについて
- ・人と猫の共生 in 白杵

3月の定例市議会では、この改正に疑問の声が出ました。

「部落差別」という文言を看板に掲げることは、解消に向かっている（ように見える）部落差別の存在を認め助長させることにつながるのでは？！という意見です。私は改正に賛成しました。

理由は、部落差別は現実にあるからです。例えばスマートフォンで「部落差別」と検索すると、何百万件も表示されます。正確な理解のためのサイトもありますが、大部分は特定の地域や個人へのいわれのない誹謗中傷です。インターネットを使うすべての人がこういう誤ったかたちで伝えられる『部落』の情報に触れる恐れがあるわけです。社会を構成するすべての人が差別や偏見を持っていなければ、いわゆる『寝た子を起こす』という言い分はその通りですが、実際にはインターネットの広がりとともに問題が大きくなっています。偏った歴史観や政治観、社会的に役立たない（=いわゆる生産性がない）など不当な理由をつけて差別を正当化し、憎悪を煽ったり暴力を肯定したりするサイトは消しても消しても次々に生まれる。ネットの匿名性に潜むこうした問題を私たちは十分に理解して、正確に中立的に学ぎ続けることが必要だと思います。課の名称変更は『白杵市は学校教育～市民教育を通して差別に向かい合い、一人ひとりの生き方を尊重する民主主義的な地域であり、そのための努力を怠りません』という宣言だと思います。



\勉強します！ /



議員になって1年がたちました。

『市議会がもっと身近になるように』『たくさんの人と意見交換しながら暮らしのなかの問題をしっかりとと考えたい』と思って活動を始めましたが…早や1年…知識が足りず自分が情けなく恥ずかしいと思うことがあります。課題を掘り下げて分析できるように、理想をしっかりと掲げて広い視野を保てるように、がんばります！

（参考：早稲田大学マニフェスト研究所2018年調査より）
地方議員は何をしているかわからない… 52.3%



18歳で成人?大丈夫?

2022年4月より成年年齢が現行の20歳から18歳に引き下げられます。18歳で大人として扱われるわけです。明治時代からの「成人」の定義が変わるという大きな変化であり、市としてもこの改正とともに様々な準備が必要かと思われます。18歳、19歳の若者が自分一人の判断で、携帯電話やローン、クレジットカード、部屋の賃貸などあらゆる契約ができる。しかも「未成年者取消権」が喪失するので取り消しもできません。若年層の消費者被害を減らすための消費者教育が急務だと感じます。



「成人式」はどうなる?

成人式は、各市町村が地域の実情に応じて実施することとなっているので、式のあり方（対象年齢、時期、内容など）をどうしていくのかは白杵市が定めることとなる。

成年年齢引き下げの時期を知っていますか?

注：成年年齢の引き下げを知っている人対象（内閣府2019年3月の公表）



民法改正に合わせて成人式の年齢を18歳にするという案

18歳の多くが高校3年生で受験勉強や就職活動など、進路に関わる大切な時期を迎えるため参加が難しいという課題などがある。

OR

これまで通りに20歳の節目に若者の前途を祝す行事として継続するという案

いずれにしても成人式は人生の新たな門出です。今年度中に関係府省庁から自治体に向け検討状況が発信されるので、市民の意見や他市の検討状況などを参考に来年度（2020年度）にはセレモニーの形を発表する予定だということです。

（社会教育課長）



若年者の消費者教育が必要では?

白杵市消費者生活センターを平成21年に設置、消費者被害を未然に防ぐための啓発やトラブルへの相談などを行っています。スマートフォンの普及などによりインターネット通販による被害も増え、被害者年齢は若年化しています。



消費者ホットライン
☎188

平成24年から教育委員会と連携して、ネットトラブルなどについて出前講座を実施しています。今年度からは市内の高等学校でも講座（賃貸借契約、マルチ商法、インターネットショッピング、クレジットカードの使用について等）を開催し、保護者に対する啓発を含め、効果的な情報提供を工夫・検討し継続します。（市民課長）

自立心を育みながら、トラブルに巻き込まれないように環境を整備するのは、私たち大人の責任ですよね。家庭（親）だけではその責任が負いきれないのが現状だと感じます。消費者教育等を含めた「市民教育」の必要性は、ますます高まっていますね。

「サーラデうすき」っちこれからどうえするん?

サーラデうすきは、「地域のIT拠点」（憩の場）として2002年にオープンしました。2016年10月「白杵の台所」へとコンセプトを変えリニューアルオープンし、白杵の食材を提供するためのレストラン・食品加工スペース・調理スペースなどを整備して、白杵の食の魅力についての情報発信やイベントで賑わいを作り出していました。リニューアル3年目の総括（成果と課題）を求めました。

来館者数は87,363人（2018年11月～の1年間）でリニューアル後は年々増加している。

二王座歴史の道との連絡通路が整備されたことで、八町大路との回遊の効果が高まり商店街の人通りが増えた。

課題としては・・・ ●専用駐車場がない ●平日の利活用が少ない

（産業促進課長：サーラデうすき館長）

デマンドタクシってなに?

進む高齢化…交通手段を確保するための施策が求められています。



予約が必要です。

（週2日、1日5便で運行）



家の近くの公民館や
停留所などに来てくれる！



病院や買い物施設で降車！
コミュニティバスへ乗り継ぎも！

自家用車を手放したいんやけど
買い物や病院にも行けんごと
なるけんなあ…

バス停まで遠くて歩けん…

こんな意見もあります

『予約制乗り合いタクシー』のような
わかりやすい名称がいいと思います。
ネーミングの工夫をお願いしたいですね。

高齢化や過疎化が急激に進み、市の税収も中長期的に減っていく中で、交通の問題は行政に任せっぱなしではなく、地域の問題としてしっかりと考えていく必要があります。地域振興協議会などの単位で考えていくことも必要なようです。



白杵市は、広い面積に人口が軒々と分布し、財政的に厳しいなか隅々まで公共交通をいきわたらせるのは、現実的にはかなり厳しいです。路線バスの利用者が年々減る中で、なるべく空白地域や不便地域を作らないようにルートや運行時間の見直しを重ね、加えて市街地を循環する『ふぐバス』などのコミュニティバスを巡回するなど、市民が利用しやすいような交通手段を工夫し続けています。一人ひとりの交通手段の確保は、その人の生活の質にも大きく関わってくることです。かつて存在した地域のコミュニティが、高齢化や過疎化のために無くなりかけているところもあります。健康教室や、高齢者サロンに参加できるようにコミュニティタクシーを運行している地域もあり（下ノ江地区・南津留地区・海辺地区）楽しみながら外出することが心身の健康にもつながっています。デマンド（要求）に応じて利用できるという新たな交通手段を他の公共交通とも上手につないで、単なる「移動」の観点からだけでなく、趣味や社会活動に参加しやすいようにして生きがい作りのためにも整備してもらいたい。小回りが利くデマンドタクシーのサービスがどのように使われ、改良が進んでいくのか、私たちの暮らしに上手くないじんでいくのか…注目していきましょう。



施設内のレストランが空いたままですが今後の活用は?

海鮮レストランとオーガニックレストランの2店舗は3月末に契約が終了。参加申請を公募したにも関わらず、2店舗とも空き店舗のままで、資産として活用されていない状態が何ヶ月も続いている。

活用としては・・・白杵の食材をアピールするアンテナショップとしての役割を兼ね、出店してほしいというコンセプトは変えずに継続的に募集を続ける。



これからの方針性と役割は?

八町大路など中心地は、店主の高齢化や後継者不足、スーパーの増加などによる空洞化が指摘されており、そのためのアイデアを、広く市民から募るような仕組みを考えもらいたいと要望。

役割としては・・・「株式会社まちづくり白杵」や「商工会議所」などと行政が一緒に今が正念場だと自覚を持って市街地活性に取り組む。